

題字：石野 華鳳
(書家 小松市出身)

更生保護 小・松能美

第12号

2022年(早春号)

保護司の安定的確保とスマートな

新旧交代で、事業・活動の継続・発展を



小松能美保護区保護司会

会長 元山 洋



令和三年度
石川県更生保護

功労者受彰者

法務大臣表彰

清水 優

中部地方更生保護委員会委員長表彰

石川県知事感謝状
高畠 明美・徳山 知子
加茂 隆夫・俵 秀雄
道願 満善・廣島 伸治
能郷 勇樹

金沢保護観察所長表彰

西房 浩二・北村 和義
由田外喜夫・吉本慎太郎
勧・南 知子

社明協力者委員長感謝状
(チャリティ作家)

西房 浩二・北村 和義
北村 長八・斎藤 敏明

先輩方や皆さまのご尽力で、ここ数年、保護司会活動の拠点であるサポートセンター、ホームページの活用が進み、各部会が主体となつた様々な活動も大きく前進しています。今後、保護司適任者の安定的確保とともにスマートな新旧交代を着実に進めていくことが、これらの事業・活動の継続・発展と、犯罪や非行を防止し「安心・安全な社会」づくりにつながっていくと思います。

現在、小松能美保護区の保護司は定員に対し八名不足で、さらに令和十二年度までに二十九名が定年退任を迎えます。今後十年間に四十名近くの保護司の確保が必要で、急速な新旧交代が進みます。安定的確保のためには、まず、私たち一人ひとりが保護司の一員として、地域での様々なボランティア活動等を生かし、機関紙やパンフレットの活用を図りながら保護司や更生保護活動について広く啓発活動を強め、適任者情報を収集することです。また、各支部・小松支部各分区で意識的・定期的に適任者の情報交換・働きかけを行うことです。

新任保護司との複数担当制の活用、「保護観察・生活環境調整」等の自主研修を重視するともに、年三回の定例研修をはじめ、保護区の事業・活動と一緒に参加することでスムーズな新旧交代が進むと思います。

今後も、関係機関、自治体、関係団体、学校を含めた地域との連携強化で、令和元年度の「君の笑顔に会いたくて」上映運動のような、地域の多くの方に参加していくなど地域密着型の活動を組織的大胆に展開し、策定された「再犯防止推進計画」の効果的運用を図り、「犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ」を強めていきましょう。

なお、佐野良衛氏が、長年にわたる保護司活動従事者として、昨年十一月三日に「藍綬褒章」を受章されました。

＊＊＊＊＊ 活動の中から ＊＊＊＊＊

少年対象者と向き合つて



能美支部 亀田 美穂

少年院入院中の保護観察対象者と交わした文通の一部をご紹介いたします。

「A君、手紙ありがとうございました。うつとうしい梅雨が続きますが元気にしていますか。湿疹はひどくないです。

医療機関で診てもらつて大事にしてくださいね。

最上級生の立場になつて、責任ある行動を頑張つてることを大変嬉しく思います。社会復帰に向けて、大変な向上委員を務め上げ、そして、読書感想文優秀賞と良い評価をもらえたことは、本当に嬉しいです。自分をほめてください。それはそれは大変で、きつかったと思ひます。

人の心中には、不思議な大きな力が沢山隠れています。A君は少年院で当たり前に、学ぶ楽しさを知りました。そして、過去の自分を見つめ直し、資格も取得することができました。そう、力は出せるものです。前に手紙に書きましたね。普段は弱そうにしている人でも火事場では大変な力が隠れていると。その力を出さずになるとだんだん弱くなってしまう。その力を出せば出すほど強くなるものだと。毎日こつこつ頑張れば大きな力となります。

温かく見守り、教えてくださった先生方には、くれぐれも感謝のお礼を忘れています。

残りわずかの院生活、健康に気付けて下さいね。待つてますよ。

七月六日

私達の国が抱える矛盾、歪み等を保護観察対象者の彼らに見て取ることがであります。学校から、社会から、そして家庭から、つまはじきされた若い彼らに自己責任を求めるのは酷です。彼らにとて何よりも大事なのは教育であり、そして、愛と寛容のある温かい見守りです。彼らを保護観察する時、少年院での教育が大きな役割を果たしていることを、少年院入院中の彼との文通を通して知ることができました。又、彼の居る少年院を見学し、その実際の生活環境を知ることができました。特に心に残ります。

人の心の中には、不思議な大きな力が沢山隠れています。A君は少年院で当たり前に、学ぶ楽しさを知りました。そして、過去の自分を見つめ直し、資格も取得することができました。そう、力は出せるものです。前に手紙に書きましたね。普段は弱そうにしている人でも火事場では大変な力が隠れていると。その力を出さずになるとだんだん弱くなってしまう。その力を出せば出すほど強くなるものだと。毎日こつこつ頑張れば大きな力となります。

彼らと向き合つて、保護観察を受け始めたその険しい顔つきが職を得て、居場所を得ることが出来ると、こんなにも変わるのか、実感します。きっと私の顔つきも一緒に変わってきたんだなあと思っています。一緒に成長しています。

高齢対象者と向き合つて



小松支部南分区 福田 緑

昨年秋、新聞のお悔やみ欄でAさんが亡くなつたことを知る。私の初めての保護観察対象者だった。その数か月前に自転車に乗るAさんを見かけたばかりだったのに、彼はなんで亡くなつたのだろうか。Aさんは当時七十歳。お酒とたばこが好きで、訳あって元妻と暮らしていた。

收入源は年金、自由に使えるお金はごくわずか。生活困窮からかお酒の万引きを繰り返し、四度目に三年間の保護観察処分となつた。彼は特別遵守事項で禁酒を定められていた。Aさんは月に二回きちんと時間を守り、自転車でサポートセンターにやつてきた。身なりから生活の困窮がうかがえた。穏やかで話好き、客商売をしていたせいか嫌なことは決して言わない。いたつて紳士であった。元妻が話すAさんの姿とはまるで違つた。

元妻は、彼に内緒でたまに電話をかけてきた。その内容は「教育し直してください！」など。彼女はAさんには厳しい。どちらもAさんの本当の姿なのかもしれない。道理で頑なに往訪を拒むはずだ。

保護観察最終月に「最後だから、面接を三回にしてもらえないか」とAさんから申し出があった。私は驚いたと同時に嬉しかった。保護観察期間中、飲み会にも出席せず極力お酒の場を遠ざけていたAさん。そんな彼の唯一の社交の場がサポートセンターだった。面接最終日、私は「これまできちんと面接に来てください」と感謝の気持ちを伝えた。それが最後だった。Aさんは再び罪を犯すことなくこの世を去つた。今頃あの世で誰に遠慮することもなく楽しいお酒を飲んでいるに違いない。

Aさんの話を聞くこと。会話から、何か困つていることはないか?心身の健康状態を探つた。最初のころは無趣味のAさんに生きがいを見つけてもらおうと色々と提案をしたが、どれも気が乗らない様子。

人生の大先輩であるAさん。教えていた大切なことは沢山あつた。Aさんは面接が終わると必ず「次の面接まで、お互いに元気で過ごしましょう」と手を振つて帰つていく。私も丁寧にお辞儀をして見送る。次第にAさんとの人間関係も出来たようになります。

令和元年十月、面接日を忘れるほどシヨックな出来事が私にあつた。母の死である。四十九日が過ぎたある日の面接、あまりの辛さに思わずAさんに「当たり前はあたりまえじゃなかつた!毎日が奇跡やつた」と漏らしてしまつた。するとAさんは「そうやなあ・・・ほんとにそうや」と気遣いながら答えてくれた。心が少し楽になつた。この日はどつちが対象者かわからなかつた。

褒章受章にあたつて



小松支部中分区
佐野 良衛

令和三年、秋の褒章に際しはからずも藍綬褒章拝受の栄に浴しました。皆様方から頂いた御指導御鞭撻の賜と心より感謝申し上げます。

「日本國天皇は多年保護司としてよく更生保護事業に寄与したことについて藍綬褒章を授与する」との褒章を授与され、保護司としての受章をこの上もなく誉に感じているところです。

この榮譽に恥じる事のないよう保護司会活動、更生保護・犯罪予防活動等に一層精進する所存です。

今後とも宜しくお願ひ致します。



チャリティ協力作家
西房 浩一

絵画にできること

ようと考えたことを想い出します。

広報誌には、たくさんの方が活動されている様子があります。それを読めば読むほど、

やはり私にできることは絵なんだとということを自覚するようになります。

私が保護司会の活動に参加するようになったのは十数年前でしょ。絵かきは社会と会うてからです。絵を通じて少しでも協力してみ



能美支部
任田 幸子

法務大臣表彰を受けて



小松支部東分区
清水 優

この度、法務大臣表彰受賞の榮誉を賜り身に余る光栄と感謝しております。私が保護司の委嘱を受けたのは、私の恩人でもある前任の保護司さんが亡くなられた為、その家族より保護司をお願いされたが故に、その地域でしたので十年間は対象者を持つこともなく、名前だけの保護司でした。ところがその頃、女子の未成年者で無免許の交通違反で保護観察が付いた対象者を見ることになりました。接する際、一日も早く処分解除になる事を願つて

接しました。処分解除が決まった時、本人と家族から感謝の言葉を頂いた時は保護司をさせてもらつて本当

私の息子が発達障害児なので、何がしかの犯罪に手を染めてしまった方々の中には発達障害が見逃されてしまい、悪い事に手を出してしまったケースもあります。このような結果を招いた原因を調べる事も、犯罪を減らすための方法のひとつと思っていましたので、罪を償わせるだけではなく違った目線での解決策も提案できたらいいなと思っています。何もわからない私ですが、どうぞよろしくお願ひいたします。



小松支部東分区
吉田 美智代

新任の抱負

あるのならばとの思いでお引き受けすることを決めました。

直近TVドラマ「生きと、ふたたび(保護司・深谷善輔)」のように精力的に活動することはできませんが、諸先輩方に御指導いただきながら、微力ですが安全・安心な社会づくりのためにお役に立てればと思います。どうぞよろしくお願ひ致します。

退任に想う



小松支部北分区
廣島 伸治

本年一月七日付けにて、一身上の都合により保護司を退任いたしました。年数にすれば十年あまりと短かったです。

当時の会長であった渕智仁氏に勧められて保護司に就任しましたが、全く上も下も東西南北もわからないままになんとか今まで来てしました。

担当の件数は多くはなかったのですが、色々なことを学ばせて頂きました。各種研修会、社会を明るくする運動、社会貢献活動他に微力ながら参加できたことに感謝します。

また先日放送された保護司のドラマ「生きとふたたび」で主人公の館ひろしのセリフ「保護司が信じてあげなければ、誰が信じるのですか?」が印象に残っています。また機会があつたら会いましょう。

永年勤めた仕事を退職し、時々のバイ

トと孫守りをしているところに保護司のお話をいただきました。未知の現場なのが不安ですが、先輩保護司の方々から経験談などのお話を聞きし、こんな私も地域社会のために貢献できることが

◆社明作文コンテスト入選作 北國新聞社 社長賞



見えない心というものを

小松市立板津中学校
二年 鈴木 柑那

見えない心というものを相手に、私達にできることはあるのだろうか。

世界は一見平和に見える。しかし、その裏には苦しくて、不安でいっぱいという人もたくさんいる。戦争、ケンカ、いじめなどに苦しんでいる人もいる。その人達を明るい未来へと導き、明るい社会を創っていくにはどうすればよいか、私はこの作文をとおして学んだ。

私は戦争やケンカ、いじめなどで苦しんでいる人はきっと一人で不安や悲しみを抱えこんでしまっているのだと思う。そして戦争やいじめを起こしてしまった時に、同じことで苦しむ人がこれ以上でないようだと思は相手に伝えた。

私は、相手に気持ちを伝えたり、相手に想いを伝えたりすることは、相手の気持ち、心を動かす力をもつていると思う。そして相手に自分の想いだけを伝えて終わるのではなく、相手の心にも寄りそい、不安でいっぱいだった心を安心でいっぱいの心にしてあげることも私達の役目であると思う。言葉というものは曖昧で自分が言つた言葉が相手には半分しか伝わらないことがある。グループから外されたり、陰口も言われ、からかわれたり。そん

な時、私の心を勇気づけてくれたのは家族だった。学校に行くことを躊躇つてしまつた時、「がんばれ」、「大丈夫」と、背中をおしてくれた祖母や、話を聞いてくれた母や父。そんなやつに負けるな、と言つてくれた兄がいた。

私はそんな家族の支えがあつたからこそ今の自分がいて、楽しく学校に通うことができていると思う。私は、そんな家族の励ましで、相手にいじめをしてはいけないこと、いじめをするのはやめてほしいということを、自分の言葉で伝えることができた。そして強い心をもつことができた。この気持

ちが相手の心に届いたかはわからない。だけど、いつか心に届き同じことをしてしまわないように、同じことで苦しむ人がこれ以上でないようだと思は相手に伝えた。

私は、相手に気持ちを伝えたり、相手に想いを伝えたりすることは、相手の気持ち、心を動かす力をもつていると思う。そして相手に自分の想いだけを伝えて終わるのではなく、相手の心にも寄りそい、不安でいっぱいだった心を安心でいっぱいの心にしてあげることも私達の役目であると思う。言葉というものは曖昧で自分が言つた言葉が相手には半分しか伝わらないことがある。グループから外されたり、陰口も言われ、からかわれたり。そん

もある。しかし、私は家族の言葉や周りの支えは心の薬になってくれることもあると思う。言葉という道具を使いこなすのは難しい。それでも伝えることは大切だと思う。今は伝続けることは大切だと思う。今は伝わらなかつたとしても、いつか相手の心に届く日は必ずくると思う。

一人で悩んでいる時、苦しい時。そんな時はもう一度思い出してほしい。仲間がいることを。一人ではつらい暗闇を歩けないかもしれない。だから共に歩き続けてくれる家族、友達がいる。

そうすればいつかきっと暗闇の奥に明るい光が見えてくると思う。仲間と共に歩き、立ち止まつてしまつた時、道に迷つてしまつた時は、向きを変えたまた歩き出せばいい。仲間の力をかりて、支えあいながら明るい未来、社会を切り拓いていく。そうすれば一秒でも早く明るい未来を創つていけると思う。見えない相手の心を動かし支え合ひ明るい社会を創つていくことができるのは私達にしかできないことだから。



第一期 定例研修

令和三年度 定例研修

↔スキルアップのために↔

令和三年十月六日（水）寺井地区公民館にて開催。「地方再犯防止推進計画と保護司適任者確保について」をテーマに窪田主任保護観察官の講義を受けました。

再犯防止のためには、社会で孤立させない円滑な社会復帰に向けた支援と共に、地方公共団体における再犯防止施策の責務が必須となります。このため再犯防止推進法第八条第二項により、都道府県及び市町村は地方再犯防止推進計画を定めるよう努めなければならぬ、ということでした。

この推進が安心安全な地域社会の実現に寄与していくものと思われます。

犯罪や非行に陥つた人の更生を任務とする保護司。近年そのなり手確保が困難となつています。小松能美保護区においても定数六十二名のところ現在五十四名。欠員八名となつています。当保護司会では保護司活動をお試しで体験していただく、インターンシップの推進、新任保護司の負担を軽減させるため先輩保護司と二名で担当する複数担当制等、様々な取り組みを行っています。

◆社明作文コンテスト入選作 北陸朝日放送 社長賞

第二期 定例研修

社会のためにできること

小松市立国府中学校
一年 山本 珠生

今、社会は明るいのだろうか。私には社会が明るいのか、暗いのかよく分からぬ。ただ、私は社会を明るくするには、いつでもどこでも誰でも「素」の自分で過ごせて、それを誰もが認められるようなものをつくるのが大切だと思う。そして誰もが自分の友達の世界の人々の素晴らしい夢を応援できるような社会は明るいと思う。

私は、自分を演じるのではなく自分を最大限に生かすのが大切だと思う。自分を演じるのは、自分に嘘をついていたりなどと考へている。なりたててしまふのではないだろうか。だから、「演じる」ではなく「つくる」が大切だと思う。嘘の自分をつくるのではない。なりたい自分を自分にすることが大切だと思う。その上で自分をどう生かすかが大切だ。うまく生かせられれば、それこそが「なりたかった自分」なのだ。だが、人は十人十色だ。自分と意見が違うと、その人を否定し、いじめる。でも、いじめっ子もいじめたくて、いじめているわけではないだろう。いじめっ子にはいじめっ子の意見が、いじめられつ

子にはいじめられっ子の意見が、そして見ている人にもそれぞれに意見がある。

それぞれの個性あふれる自分がいる。それを否定をするのではなく、認め合うのだ。認め合った上で、仲良くするのには、自由だ。人には相性が合う人もいれば、合わない人もいる。それは、当たり前の事である。「誰とでも仲良く」と

言うが、それは誰にでも普通に接することであり、誰とでも友達のように接するというわけではないと思う。だから、無理に付き合う必要はない。だからといって、嫌いな人と好きな人の接し方にあまりにも差があつてはいけない。

また人の接し方を誤った人には、立ち直れるよう優しく接してあげることが大切だ。それは、目の前にいる人や身の回りにいる人に限った話ではない。外国人の人や障害のある人などの自分とは気持ち以外にも違うところがある人でも、その人自身、意見を尊重すべきで、認め合うべきなのだ。

認め合うだけではだめだ。たがいに歩み寄ることも大切だ。人はそれぞれ素晴らしい夢を持っている。それは、自分だけで叶えられるものではない。努力しなければ叶わないものがほとんどだ。努力を続けるのは難しい。だが、少しでも応援されると、もうちょっと続けよう元気が出ることがある。だか

ら、私は、人の夢を応援するのが大切だと思った。罪を犯してしまった人に応援をする。それが大事なのだ。今は、インターネットで世界中のひとつながることができる。そのインターネットにて犯罪やイジメが起ころうとしている。そんなことにインターネットを使うのではなく、世界中の全ての人を応援するため使うといいと思う。

このような理由から私は、たがいに認め合い、夢を応援できるようにしなければならないと思った。もしかしたら、一人の方が落ち着くから放つておいてほしいと思う人もいるかもしれない。そもそも人と関わるのが苦手という人もいるだろう。だけど、直接会わなくてもそんな人もいる、と認識できればいいんじゃないかと思う。それに、どんなに人と関わるのが苦手な人でも、誰か一人でも認めて応援してくれる人がいればきっとどこか少し安心してかたの力を抜いて過ごせるのではないか。素直に嘘なく話せる人がいれば、自分のことを応援してくれる人がいればまたがんばろう、と思えるのではないか

だらうか。もちろん、これは簡単なことではないと思う。こんなことをしても犯罪や非行はなくなることはないだろう。だが、これを広めていけば一人また一人と樂になる人がいるのだと思う。私は、大人になつてもありのままの自分でいたい。自分をかくして生きたく



私の案では、社会全体が明るくなれるようなものでもないし、犯罪や非行を絶とう、とするものでもない。だが、認め合えば犯罪非行は減るかもしれない。それは分からぬが、一人一人の明るさが積み重なって、社会の明るさになつていくのではないだろうか。

教育現場からの声



小松市立国府中学校
校長 坂口 順一

「勧進帳」を上演して

役者に囃子方、後見、マイク、着付け等、三年生を総動員しての取組となりました。更に一、二年生が発表会場を華やかに彩るモニュメントや限取り面のトリックアートの制作を通じて三年生をバックアップすれば、職員は各担当に分かれ、生徒の支援に当たるなど、正にチーム国府として臨んだ一大プロジェクトでした。

小松市内の中学校十校が持ち回りで担当している「勧進帳」。今年度は国府中学校が当番校でした。

夏以降、「勧進帳」一色の二学期となりましたが、生徒達は「誰かに支えられて今の自分がある」と感じて、生徒達は「誰かに支えられて今の自分がある」と感じを味わうことができました。この取組で得た気づきや自信を大切にして、これから時代を力強く、優しく生きてほしいと願っています。

万全を期して臨んだスポーツの祭典。結果を残せた人、そうでない人。四年間の努力に拍手を送りたい。
活動の制約の続く中、皆様のご協力により第十二号を発刊することができました。感謝申し上げます。
まだまだコロナとの闘いは続きます。ご自愛ください。

新川 賢

※お問い合わせ 事務局
TEL0761-46-5105 FAX0761-46-5108
E-mail hogoshikai@aqua.plala.or.jp
URL <http://hogoshikai.org>

発行日 令和4年3月10日
発行 小松能美保護区保護司会 広報部会
印 マルト株式会社

小松支部だより

今年度は褒章受章者や四名の新任保護司を迎えていることもあって、久しぶりに複数回分区会を開くことができた。コロナ禍が少し収まつた頃で、ほとんどの分区員が参加でき、安心。やっぱり顔を合わせると、話が盛り上がり楽しい。保護司は孤独な仕事なので、日頃思っていることを出し合えると、ほっとする。お互いを知ることができて、親しみがわく。

分区会は、保護司会活動の原点である。今後は、理事会後には開いて情報を共有し、活動の充実につなげていきたい。

能美支部だより

昨年十月に保護司に任命された田幸子さんを迎え、十一月三十日に能美支部保護司会を開催しました。通常であれば歓迎会を開催して、懇親を深めるところではありました。それはかないませんでした。その代わりに、支部保護司全員が、これまで経験したことを報告し合い、互いに保護観察に関する意見交換会を行いました。有意義な会合となりました。

また、能美支部の大事業あります機関誌「能美更生保護」の第四十九号を十二月二十日に発刊しました。コロナ禍で活動が制限されていました。

いよいよ、今年は第五十号の記念号となります。能美支部の先輩保護司さんの意思を引き継ぎ、より良い機関誌として号数を重ねて後世につなげていけるよう、今後も研鑽を重ねていくこととしています。



小松能美保護区保護観察件数等／2月1日現在の増減比較数

単位(件)

種別	1号	2号	3号	4号	環境調整
	家庭裁判所で保護観察処分を受けた者	少年院から仮退院を許された者	刑務所から假出所を許された者	刑事裁判所で刑の執行を猶予され保護観察に付された者	保護観察前に要する身元引受け人及び帰住環境と調整作業
令和3年	4	0	0	9	16
令和4年	4	0	1	5	16
増減	0	0	1	-4	0

最近の保護観察件数の動向

保護観察事件は全員が男性である。また、生活環境調整事件は刑事施設入所者15名、少年院入院者が1名であり、うち、女性は刑事施設入所者1名のみで保護観察・生活環境調整ともほとんど男性が占めている。